

風水害に備える！

毎年、日本各地で台風や大雨による災害が発生し、尊い命が失われていきます。市内でも、豪雨による土砂崩れや河川の氾濫などの災害が何度も発生しています。過去の災害からの教訓を踏まえ、風水害に備えましょう。



▶ 台風が来る前に

暴風雨や高潮、高波など、さまざまな被害をもたらす台風ですが、地震などと違って、発生から接近までに時間的な余裕があります。台風が発生したときは、被害を最小限に抑えるため、テレビやラジオなどの気象情報に注意し、進路や強さをよく把握しておきましょう。

▶ 突然の集中豪雨

狭い範囲に突然、短時間に降る大雨。集中豪雨は、気象レーダーなどの観測網で捉えにくい現象なので、情報が提供されるまでに時間がかかり予測が困難です。日頃から備えを万全にし、大雨の

情報を得たらすぐに対処できるようにしておきましょう。

▶ 土砂災害の特徴と前触れ

◎ 地すべり

特徴は…
粘土などの滑りやすい層を境に、その上の土がそっくり動きだす。前触れは…
○ 地面にひび割れができる。
○ 地面の一部が陥没する。
○ 沢や井戸の水が濁る。
○ 崖や斜面から水が湧く。
◎ 斜面崩壊
特徴は…
崖崩れや山崩れが突発的かつ短時間起こることが多い。前触れは…
○ 小石がバラバラと落ちる。
○ 崖から水が湧く。
○ 崖にひび割れができる。

◎ 土石流

特徴は…

くわしくは
総務課
危機管理放射能対策室
☎(21)5166

土石と水が一体となって流れ落ちてくる。「山津波」や「鉄砲水」ともいわれている。前触れは…
○ 山鳴りや木立の裂けるような音、ドンといった音がする。
○ 雨が降り続けているのに、川の水が急に減り始める。
○ 川の水が濁ったり、倒木が流れてきたりする。

▶ 雨量情報・河川水位情報

県のシステムを利用して、雨量や河川水位などの情報を得られます。台風が接近しているときや集中豪雨などの際には、早めに情報を集めて対策を立てましょう。得られる情報は…
○ 市内の雨量や河川の水位などに関する情報
※市内全域の情報です。
電話番号(通話は有料)：(53)2147、2148、2149

▶ 緊急情報エリアメール配信

市は昨年6月、NTTドコモのシステムを利用した緊急情報「エリアメール」を導入しました。これにより、気象庁が配信する緊急地震速報に加え、市からの災害情報を、市内にあるNTTドコモの携帯電話に一齐配信することができます。今後、災害で避難の必要が生じた場合など、緊急時に必要な情報を配信します。

▶ とちぎテレビのデータ放送

4月からとちぎテレビのデータ放送で、市のさまざまな情報を配信しています。災害時には、避難勧告などの緊急情報を配信しますので、情報収集手段としてご利用ください。

▶ 県の防災メール配信サービス

県は、県内の地震や気象に関する情報について、携帯電話向けに無料の防災メールを配信しています。なお、通信料などは登録者負担です。配信する主な内容は…
○ 地震情報(震度4以上)
○ 気象警報・注意報
○ 火山情報など
※登録方法など詳しくは、県ホームページ(http://www.pref.tochigi.lg.jp/d03/eo/kankyohozzenbou/sai-ma.html)をご覧ください。

▶ 雨量・風速に関する豆知識

▶ 雨量と災害の関係

1時間雨量	予報用語	予想される被害など
10mm以上 20mm未満	やや強い雨	長く降り続く場合は注意が必要
20mm以上 30mm未満	強い雨	側溝や下水、小さな川が溢れ、小規模の崖崩れが始まる
30mm以上 50mm未満	激しい雨	山崩れ・崖崩れが起こりやすく、都市部では下水管から雨水が溢れる
50mm以上 80mm未満	非常に激しい雨	土石流が起こりやすく、都市部では地下鉄や地下街に雨水が流れ込む場合がある
80mm以上	猛烈な雨	雨による大規模な災害の発生する恐れが強い

▶ 風速と災害の関係

平均風速(秒速)	予報用語	建築物への被害
10m以上 15m未満	やや強い風	取り付けの不完全な看板やトタン板が飛び始める
15m以上 20m未満	強い風	ビニールハウスが崩れ始める
20m以上 25m未満	非常に強い風(暴風)	鋼製シャッターが崩れ始め、風で飛ばされた物が当たりガラスが割れる
25m以上 30m未満		ブロック塀が壊れ、取り付けの不完全な屋外装材がはがれ飛び始める
30m以上	猛烈な風	屋根が飛ばされ、木造住宅の全壊などの被害が生じる

風水害に対する備えを確認しよう!!

普段の準備は…

- 側溝や排水口の掃除をして、水はけを良くしておく。
 - 避難所と避難経路を確認しておく。
 - 家族が離れ離れになったときの集合場所を決めておく。
 - 非常持ち出し品を準備しておく。
※非常食や救急医薬品、携帯ラジオ、懐中電灯、予備電池、衣類、携帯ボンベ式コンロなど。
 - 屋根瓦のずれやブロック塀のひびなどの不具合がないか点検・修理しておく。
- 台風の接近や大雨による災害の恐れがある場合は…
- 気象情報に注意する。

- 風で飛ばされそうな物を片付け、固定する。
 - 窓や雨戸をしっかりと閉め、必要場合は、板などで補強する。
 - 床上浸水の恐れがある場合は、生活必需品を高い場所へ移す。
- 避難する場合は…
- ガスの元栓を閉め、電化製品の電源を切り、戸締りする。
 - 頭はヘルメットや安全帽で保護する。
 - 靴は丈夫で底の厚いものにする。
※長靴は水が入ると歩きにくいので避ける。
 - 崖崩れ・土石流が起こりやすい場所や河川には近づかない。
 - 引き続き気象情報や注意報などに注意する。

日頃の備えを万全に!

今年は、6月に早くも台風が上陸し、市内で浸水や土砂崩れなどの被害が発生しました。今後も台風に限らず、大雨や集中豪雨などによる水害、地震にも注意しなければなりません。3ページの「風水害に対する備えを確認しよう」を参考に、日頃から災害への準備を心掛けるとともに、4・5ページの一覧表で、自分が避難すべき場所を確認しておきましょう。

また災害発生直後は、「自分の身を自分で守る(自助)」ことと、「自分たちのまちを自分たちで守る(共助)」ことが大切です。市や国・県などによる支援(公助)の体制が整うまでの間、被害を軽減するため、皆さんのご協力をお願いします。

なお、新たに「わが家の防災行動マニュアル」を配布予定です。ぜひご利用ください。



危機管理放射能対策室長
おおはし 大橋 富昭